

柳子嬪

はらかに追はれたる身も亡き父の御魂はく  
つと斬るとも一けり

七月の御魂祭の辰いれ一きは父の墓とすといは  
に思はれり

世にあらばあはざらんもかゝりよにて何と憐あはか  
る父の母たすは

念ふそあゝかかゆ三つほどかゝたりとりおに  
よろこぶけさの食卓

夏になりは海一山一と子と思ひ夜業す身の  
あはれ人の親

ふたりの子あはれ故きて着つかと足るに涙を  
夜半もあけり

柳子嬪